

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010 ～ 2012

課題番号：22520742

研究課題名（和文）19 世紀前半リムリック州における農民反乱の分析

研究課題名（英文）An analysis of rural disturbances in County Limerick in the early nineteenth century

研究代表者 勝田俊輔 (KATSUTA Shunsuke)

東京大学大学院・人文社会系研究科・准教授

研究者番号：00313180

研究成果の概要（和文）：19 世紀前半のリムリック州における農民反乱の実態が解明された。反乱の動機面では、反乱農民は地域の農業経済上の問題の解決だけでなく社会変革も志向していたのであり、この点で政治性をもっていた。他方組織面では、同州での農民反乱は従来考えられていたよりも発達した地下組織に支えられていた。反乱農民は、ダブリンの秘密結社とネットワークを構築しており、組織構造をダブリンの結社から流用した一方で、州内各教区の「委員会」を基盤とする独自の組織を形成するにいたっていた。

研究成果の概要（英文）：This project has shed light on the rural disturbances in County Limerick in the early nineteenth century. While the disturbers were trying to deal with agrarian issues in their localities, they were at the same time envisaging a kind of social revolution. In terms of organisation, the disturbers in Limerick had a more sophisticated organisation than historians thought formerly. The disturbers kept communication with a political secret society in Dublin City, from which they borrowed their organizational structure. Although the Limerick disturbers were at one time under the direction of the Dublin society, they soon developed their own network of underground organisation based on a 'committee' in each parish in the county.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：

キーワード：アイルランド・農民運動・19世紀イギリス

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、博士論文においてヨーク州の農民反乱を扱ったが、ダブリンの国立文書館で未使用の史料群を発見し（下記）、そこには、19世紀のアイルランドにおいてヨーク州と並んで農民反乱が盛んだったリムリック州に関連する情報が豊富に含まれていることを見いだした。

2. 研究の目的

上記の未使用史料を活用することで、19世紀前半のリムリック州における農民反乱の実態を解明することが目的である。とりわけ、反乱農民の観念と反乱の地下組織に焦点を当てた。

3. 研究の方法

ダブリンの国立公文書館所蔵の **State of the Country Papers** および **Chief Secretary's Office Registered Papers** の史料分析を主な研究方法とした。**State of the Country Papers** は、地方当局がダブリンの行政府に送った治安維持関係の報告書だが、**series 1** と **series 2** に分けられている。**Series 1** は文書官によるインデックスが付されているのに対し、**series 2** はその作業が途中で中断しており、このためこれまで歴史家によって用いられることがなかった。また、**Chief Secretary's Office Registered Papers** は、本来は治安維持に特定されない、統治全般に関する文書群だが、1820年代のものは治安維持関係の書類を含み、やはりインデックス化がなされておらず、同じく未使用の状態にあ

る。これらの二つの未整理の史料群は、分量で言うと、インデックス化されているものの半分強に達しており、農民反乱の研究に関して有用な情報が含まれている。本研究課題においては、これら未使用の史料を本格的に活用した。

4. 研究成果

上記の未使用史料の分析により、19世紀前半のリムリック州の農民反乱に関して、主に以下の知見を得た。第一に、反乱農民は、地域の農業経済上の諸問題を解決することに加えて、一種の社会変革を構想していた。その内容は、1790年代の革命運動の復興、千年王国主義、反プロテスタント主義など多様であるが、彼らの農民反乱が政治的な性格を帯びていたことは疑いない。この点で、リムリック州の農民反乱は、ヨーク州におけるものと強い類似性を持っていたと言える。第二に、組織面を見ると、反乱農民は、従来考えられていたよりも発達した地下組織をもっていた。リムリック州の反乱組織は、ダブリンの地下政治組織とネットワークを築いており、その上で組織構造をダブリンの結社から流用し、一時的にはダブリンの統制下にあった。この時期のダブリンの政治結社は、理論上は全国に組織網を広げていたからである。ただし、1820年代初頭より、リムリック州の組織は独自の動きを見せ始めており、州内の各教区に設立された「委員会」を中核としつつ、州の「中央委員会」を頂点とする州独自の地下組織を完成させた。この組織は、未然に終わったとは言え 1822年3月に蜂起を敢行す

る計画が進められていたように、ある程度の活力を有していたと考えられる。

なお以上の研究成果は、一部が下記の発表論文等に活かされた一方で、英語の単著としても公刊すべく準備中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

1. Shunsuke KATSUTA, 'Comment' to Julian Hoppit's 'Compulsion, compensation and the sanctity of property in Britain, 1688-1833', in Kazuhiko Kondo and Miles Taylor eds., *British history 1600-2000: expansion in perspective. Proceedings of the sixth Anglo-Japanese conference of historians* (London: Institute of Historical Research, 2010), pp. 27-31
2. 勝田俊輔「第 9 章 アイルランド」(近藤和彦編『イギリス史研究入門』山川出版社 2010 年 10 月)、204-229 頁
3. 勝田俊輔「秘密結社と国家——アイルランドの非合法宣誓法 (1823) を中心に」(深沢克己・桜井万里子編『友愛と秘密のヨーロッパ社会文化史——古代秘儀宗教からフリーメイソン団まで』東京大学出版会 2010 年 11 月)、271-299 頁
4. Shunsuke KATSUTA, 'Conciliation, anti-Orange politics and the sectarian scare: Dublin politics of the early 1820s', *Dublin Historical Record*, vol. lxiv, no. 2, Autumn 2011, pp. 142-159
5. 勝田俊輔「ブリテン諸島史再考」『歴史と地理 世界史の研究』233 号 (No. 659) 2012 年 11 月、55-59 頁
6. 勝田俊輔「高神信一氏の書評に寄せて」『史

学雑誌』121 編 1 号、2012 年 1 月、95-98 頁

7. 勝田俊輔 『『イギリス史』・アイルランド史・「3 国史」——二つの国家合同の事例から』『文化交流研究<東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要>』26 号、2013、43-46 頁

8. 勝田俊輔 「近代イギリス (回顧と展望)」『史学雑誌』122 編 5 号、2013 年 5 月、329-336 頁

9. Shunsuke KATSUTA, 'The proposal for a militia interchange between Great Britain and Ireland', *Irish Sword*, vol. xxix, No. 115, summer 2013 (掲載決定)

[学会発表] (計 3 件)

1. Shunsuke KATSUTA, 'Possibilities of religious reconciliation in early nineteenth-century Ireland'. The first international workshop: "Religious conflict, religious concord in Europe and the Mediterranean world", organized for the research project, *Conflict and reconciliation among confessions and religions in medieval and modern Europe and Mediterranean world: study of comparative history*, held at the University of Tokyo (Hongo Campus), 23 November 2010
2. Shunsuke KATSUTA, 'Comment to Professor Suire. The second international workshop: "Religious conflict, religious concord in Europe and the Mediterranean world", organized for the research project, *Conflict and reconciliation among confessions and religions in medieval and modern Europe and Mediterranean world: study of comparative history*, held at the

University of Tokyo (Hongo Campus), 29
October 2011

3. 勝田俊輔「二宮宏之氏と民衆運動史研究—
ールボン、ルフェーヴルとの対比」ヨーロッ
パ近世史研究会：近世史研究の現在——二宮
宏之さんのお仕事との対話——2013年3月
23日

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

勝田俊輔 (KATSUTA Shunsuke)

東京大学大学院・人文社会系研究科・准教授

研究者番号：00313180

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：